

事業名称	全市エリアミュージアム化構想Ⅰ「香寺まるごとミュージアム」
団体名	特定非営利活動法人スローソサエティ協会
協働の相手方	観光課

目的	エリアマネジメントで得た成果をさらに有機的なミュージアム構想に発展させる。そのモデルとして香寺町を取り上げ、既にある地域資源を再編集し価値を高める。また、姫路城から少し足を延ばした旅行先として、観光資源としてのエリアの魅力外国人を含めた観光客に知ってもらう。
内容	香寺町エリアを対象に、フィールドミュージアムとしてのブランディングをはかった。 ①ヒアリング（社会） 香寺町はかつて旧姫路市とは違う組織として独立した行政体制であった。それによる香寺町独自の恵まれた施設や培われた文化と、姫路市と合併した際に失った機能について確認した。 ②街歩き（経済） ③グリーンウォーキング（環境） 実際に香寺町を街歩きし、地位資源（小商い商店、地元の工場、神社仏閣等）をピックアップした。また、森の案内人三浦豊さんと共に、緑を見るウォーキングを行った。 ④スポットの洗い出し ⑤ミュージアムとして見立て・マップ作り ①～③をまとめ、「見る撮る」「体験」「ミュージアムショップ」など、香寺町全体を各ミュージアムの要素に見立て、ブランディングした。
事業経過	8～10月：香寺町内のイベント参加・訪問・ヒアリング 11月・1月・2月：香寺訪問、スポット洗い出し 11月：「グリーンウォーキング」実施 3月：エリアミュージアム冊子・マップ完成
事業の効果	姫路駅中心部から離れた姫路市北部と呼ばれるこの場所は、姫路市中心部のベッドタウンであり、見る場所は何もないと思われがちだったが、実際に香寺に何度も足を運ぶことで、実際の香寺の弱点（東西の移動手段がない、地点と地点を結ぶ交通手段がない）や魅力を実感することができた。「歩いて元気になる香寺まるごとミュージアム2024年」マップや冊子が無事に完成し、配架された。
今後の展望	今後、成果物が観光客や住民の目に留まり、香寺を楽しく訪問してくれる人が増えることを期待する。また、それに伴い、レンタルサイクル等の交通手段が増えるなど観光サービスにつながればよい。スマートフォンアプリを使った機能が進化し続けているので、マップ作りもそれに対応し、旅プランを作るアプリ、交通機関の運行情報を見るアプリへの誘導など、より快適に観光できる誘導もしていく。

【実施団体の事業総括・感想等】

姫路駅から15分程度で香呂駅に着くため、JR播但線の利便性はとても良いのだが、それ以外の行動に制限があり、各スポットへのぶらり訪問ということは簡単にできないという現実を目のあたりにした。現地の店の方々とお話をする中で「姫路市と合併し、香寺へ手が回っていない、もっと香寺観光PRに力を入れてほしい。こういうマップがあればとても助かる。」と言われていた。

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

現地での調査事業を通じて、歩いて楽しい地域資源が盛りだくさんに紹介されており、姫路での観光客の滞在時間の延長につながり、また、姫路駅周辺から離れた香寺町地域のきめ細やかなブランディング化に貢献できる事業であった。ネット上にも掲出されており、今後もより多くの観光客に本事業の成果物であるマップを利用し、散策を楽しんでいただきたい。引き続き、二次交通を含めた周遊の仕組みや、香寺町への誘客に向けたプロモーションについて協働して取り組んでいきたい。
